



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済 (1月15日～17日)

1. 石油化学プラントと排ガス問題 (15日付イラン・デイリー紙)

NIORDC (National Iranian Oil Refining & Distribution Company, イラン国営石油精製販売会社) は、石油化学プラントで製造されたガソリンは製油所で精製されたガソリンと同質であると発表した上で、「国内各地の大都市での排ガス問題と、石油化学プラントで製造されたガソリンとは無関係である」とした。

2. 貿易に関する経済財務大臣の発言 (15日付イラン・デイリー紙)

シャムソッディーン・ホセイニー経済財務大臣は、米国や EU による制裁に言及し、政府の経済作業グループの決定に基づき、イランは今後、国外貿易においてユーロと米ドルを使用せず、国外との貿易方法を変更する準備を進めるであろうと述べた。

3. イランの原油輸出量 (15日付ジョムフーリーイエ・エスラーミー紙)

イラン産原油の輸出について、日量 91 万バレル以上 (イランの総輸出量の 70%) は中国、インド、南アフリカ向けであり、残りはアジア諸国、トルコ、欧州諸国向けである。イランの原油輸出量は合計で日量 130 万バレルである。

4. 予算案提出の遅延 (17日付ジョムフーリーイエ・エスラーミー紙)

アリー・ラーリージャーニー国会議長は、「最高指導者は、来年 [ヒジュラ太陽暦 (イラン暦) 1392 年 (西暦 2013 年 3 月 21 日～2014 年 3 月 20 日)] の予算案が政府から提出されていないことに関心を示している。予算案の提出遅延は将来を考えると良くないと最高指導者に伝えた所、閣下は政府に警告を発した」と述べ、政府に予算案を提出するよう呼びかけた。

5. 補助金合理化に関する経済財務大臣の発言 (17日付イーラーン紙)

シャムソッディーン・ホセイニー経済財務大臣は、「補助金合理化第二弾の実行は、イランの基礎物資輸入における対外依存を抑制すると考えられる。補助金合理化によって、エネルギーと食料の供給、消費の促進、密輸の防止、製造過程の最適化が成されるであろう」と述べた。

6. 大統領の国会演説（17日付シャルグ紙）

アフマディーネジャード大統領の国会演説に関し、ある経済評論家は16日に「大統領の約1時間半に上る演説に国会は賛同しておらず、政府もまた国会に反意を示している。イランは三権の団結のため、互いへの配慮が必要である」とコメントした。

7. パキスタン・ルピーでの電力料金の支払い（16日付シャルグ紙）

パキスタンは2006年7月から未払いとなっているイランからの電力代金を、パキスタン・ルピーで支払うことを検討している。現在、日量74メガワットをイランのスイースターン・バルーチェスターン州から輸出しているが、5,000万米ドルが未払いとなっており、イランの電力会社からの供給が停止される恐れがあった。

9. 輸入量全体に占める基礎物資の割合（16日付ジヨムフーリーイエ・エスラーミー紙）

ヒジュラ太陽暦（イラン暦）1391年（2012年3月20日～2013年3月20日）の9カ月間における輸入量全体のうち、43%（輸入額全体の16%）は、輸入優先順位の高い基礎物資であった。小麦、砂糖、食用油、米、トウモロコシ、大豆といった基礎物資は、いずれも輸入品の上位10位以内に入っている。